

脳ドック 検査項目		詳細
身体測定		
腹囲測定		身長・体重・腹囲を測定し、太りすぎ・やせすぎ・体脂肪の程度を調べます。
肥満度		
高次脳機能検査		読み書き・記憶力などのテストで、早期の痴呆・認知症の発見を目的とする検査です。
頭部MRI		磁石・高周波・コンピューターを応用し、脳の断面をみます。脳病変を検査します。
頭部MRA		MRIによる脳の血管の形や走り方の異常を調べます。
循環器	血圧	生活習慣病の1つである高血圧症を調べます。
	心電図検査（安静時）	不整脈や心筋梗塞、刺激伝導の異常などを調べます。
	頸動脈エコー	頸動脈の動脈硬化の有無を調べます。
PWV/ABI検査		両腕と両足首の血圧・脈を測定し、動脈の詰まり・弾力性を調べます。
血液系	白血球数	白血病や細菌の感染、炎症があると増加します。
	赤血球数	貧血等の有無を調べます。
	ヘモグロビン（血色素量）	血液中の赤血球に含まれる血色素（血液の赤さの元）の量。
	ヘマトクリット	血液中の赤血球の濃度の割合を示します。
	血小板数	肝病変や血液病で出血を止める働きをする血小板の量。
肝機能	GOT（AST）	肝臓や心臓等に含まれる酵素で、これらの臓器に障害が生じて細胞が壊れると、高値を示します。
	GPT（ALT）	
	-GTP	たんぱく質を分解する酵素で、アルコール性肝障害等で高値を示します。
	ALP	胆のう、胆道疾患、骨疾患の診断に役立ちます。
	TP（総蛋白）	血液中のたんぱく質の総量を表し、体の栄養状態を示します。肝機能や腎機能に障害が起こると値が変動します。
代謝系	総コレステロール	ホルモンやビタミンD等の原料として欠かせない脂肪の一種ですが、多すぎると動脈硬化などの原因になります。
	HDL-コレステロール	善玉コレステロールと呼ばれ、悪玉コレステロールを取り除く働きがあります。少ないと動脈硬化の危険が高くなります。
	LDL-コレステロール	悪玉コレステロールと呼ばれ、多すぎると動脈硬化や心筋梗塞を引き起こします。
	TG（中性脂肪）	体内でもっとも多い脂肪で、値が高いと動脈硬化を進行させます。
	尿酸	プリン体が代謝された後の老廃物で、増えすぎると痛風、尿路結石、腎障害、動脈硬化の原因となります。
糖尿病	空腹時血糖	空腹時の血液中のブドウ糖濃度を測定し、糖尿病の早期診断に役立ちます。
	HbA1c	過去1～2ヶ月の平均的な血糖の状態を反映します。
腎機能	尿素窒素	体内でエネルギー源として使用されたたんぱく質の燃えカスで、腎機能が悪くなると高値を示します。
	クレアチニン	
	eGFR	腎臓がどれくらい機能しているかの指標となります。
尿一般検査	蛋白定性	尿中の蛋白の有無を調べます。腎臓病や尿路系の異常を発見するのに有効です。
	糖定性	尿中の糖の有無を調べます。糖尿病の発見に有効です。
	潜血定性	尿中の血液の有無を調べます。腎臓や尿道にかけての出血の異常を発見するのに有効です。
	ウロビリノーゲン定性	肝臓で作られるビリルビンからできる物質です。肝障害の有無の目安になります。
	ビリルビン定性	肝臓で作られる胆汁色素で、肝障害や胆道閉塞等の黄疸時に増加します。
その他	Na	脱水や体液のバランスのくずれた時やホルモン異常を示します。
	K	腎障害や溶血、ホルモン異常等で異常値を示します。